

4 死亡の状況

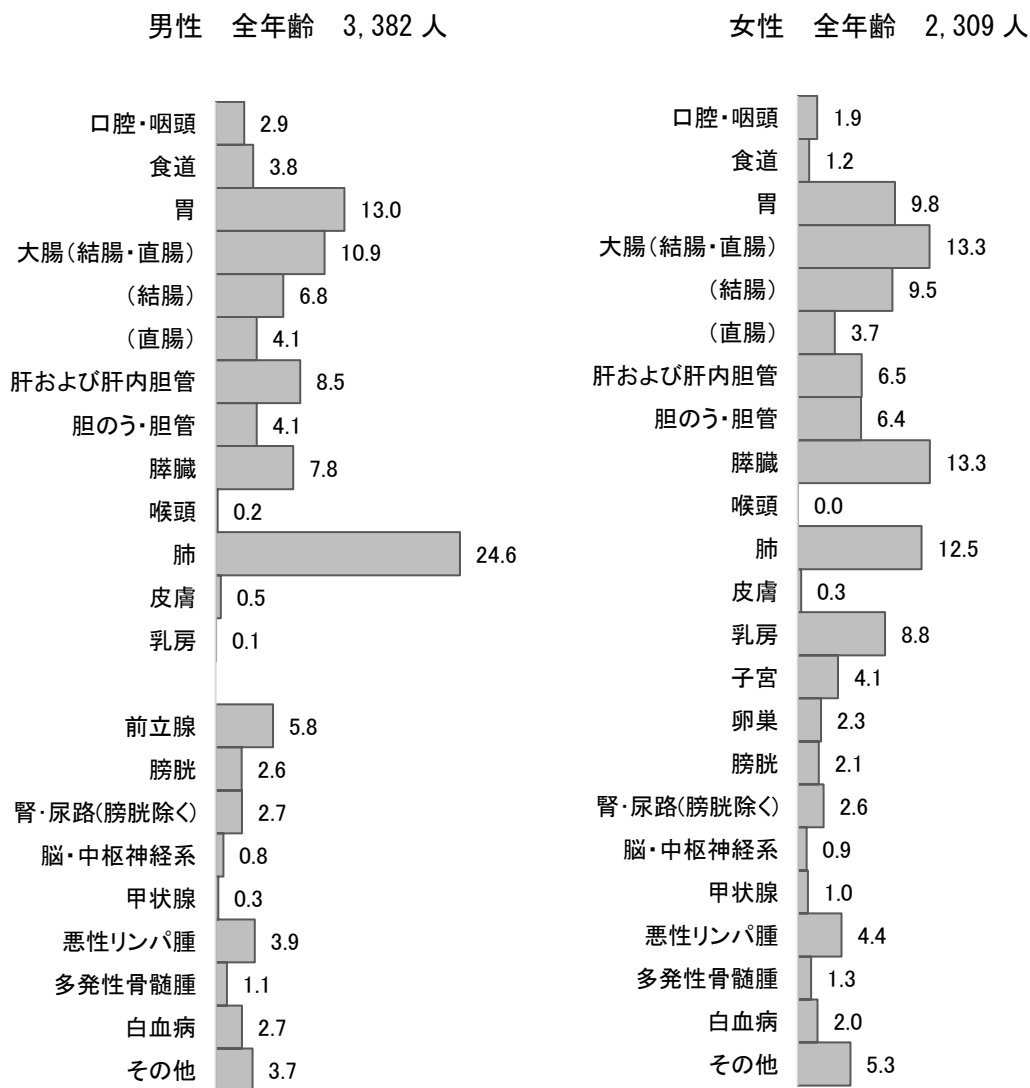
(1) 死亡の概要

岡山県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性 3,382 人、女性 2,309 人、合計 5,691 人であった。

部位別では、男性は肺（831 人、24.6%（全部位に占める割合、以下同じ））が最も多く、次いで胃（438 人、13.0%）、大腸（370 人、10.9%）の順となっている。また、女性では膵臓（307 人、13.3%）が最も多く、次いで、大腸（306 人、13.3%）、肺（288 人、12.5%）、胃（226 人、9.8%）の順となっている。

【図 17】

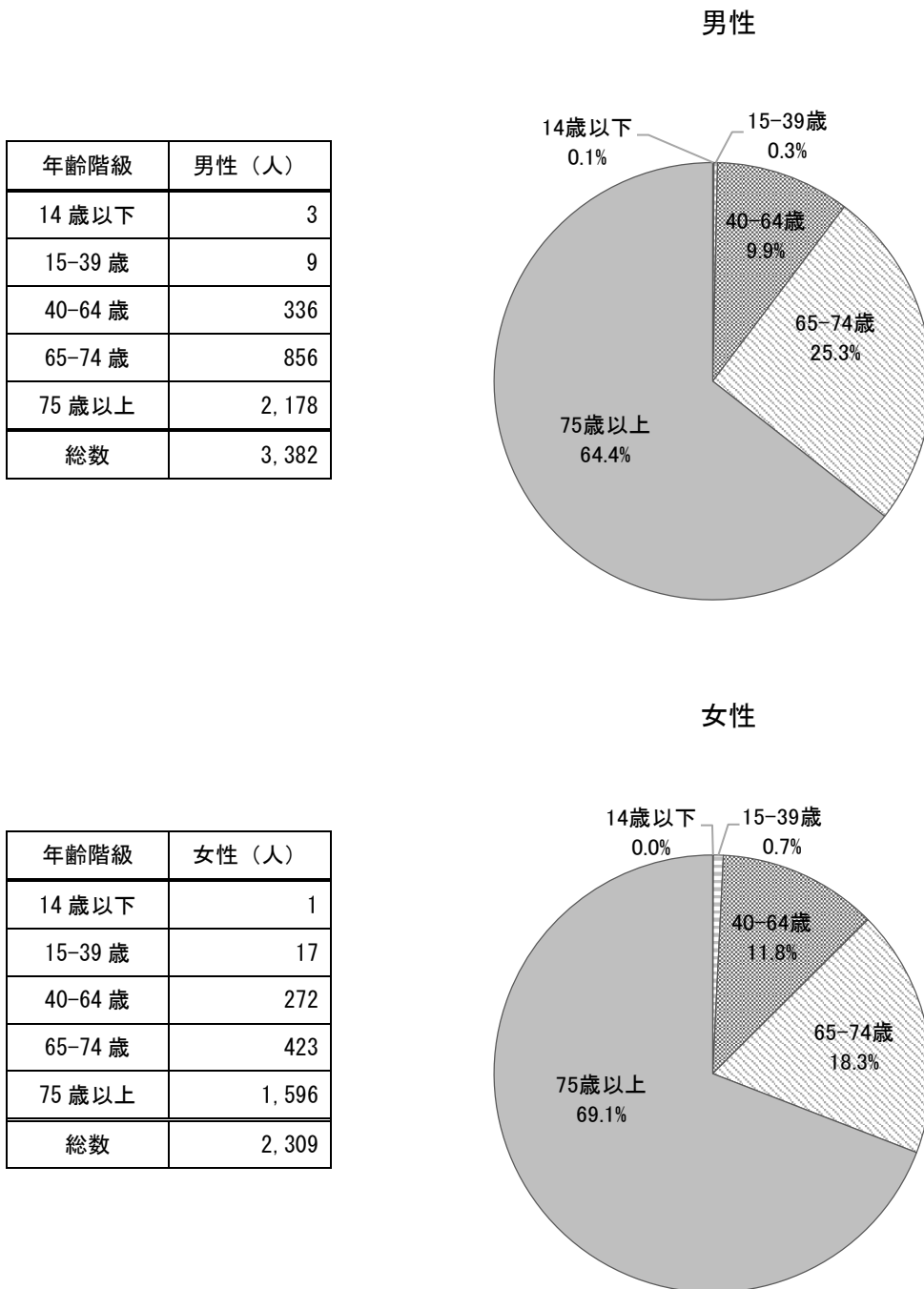
図 17 部位内訳 (%) (表 9 から作成)



(2) 年齢別に見たがんの死亡

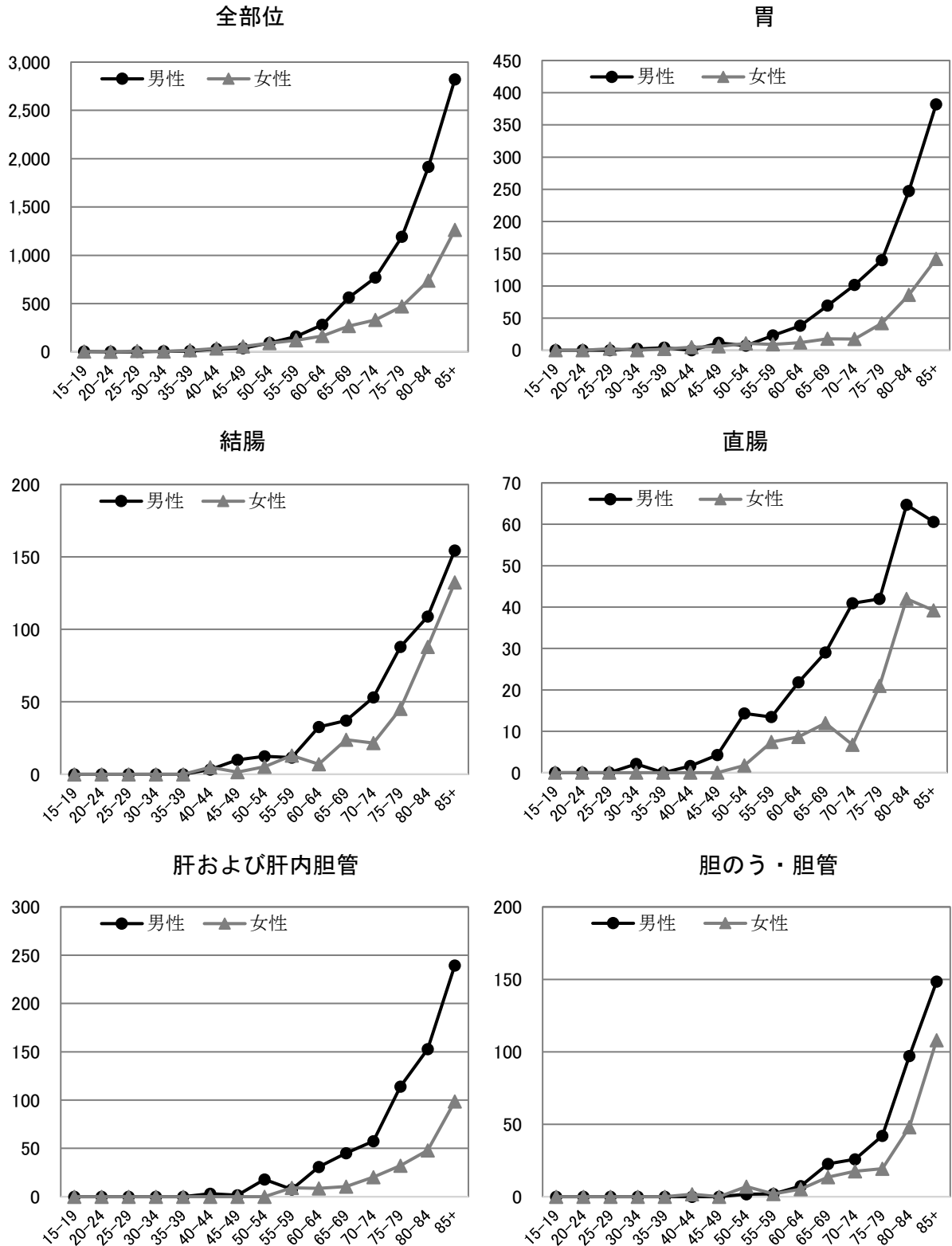
がんによる死亡について年齢階級別内訳をみると、男性では全体の約 89.7%、女性では全体の約 87.4%が 65 歳以上である。【図 18】

図 18 年齢階級別内訳 (%) (表 10 から作成)

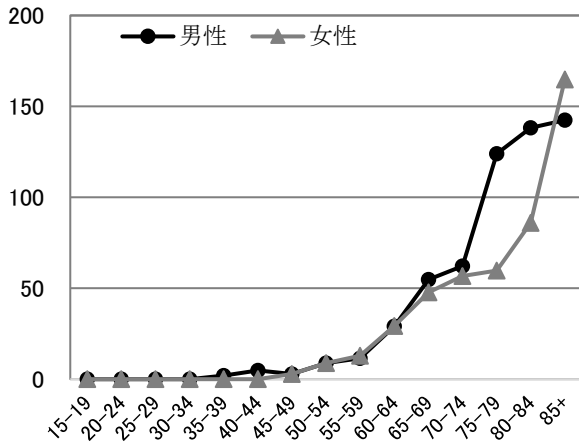


年齢階級別死亡率は、ほとんどの部位において、高齢になると罹患率が高くなるため、年齢とともにがんによる死亡率も高くなっている。子宮は30代後半から50代の比較的若い世代の死亡率が高い。【図 19】

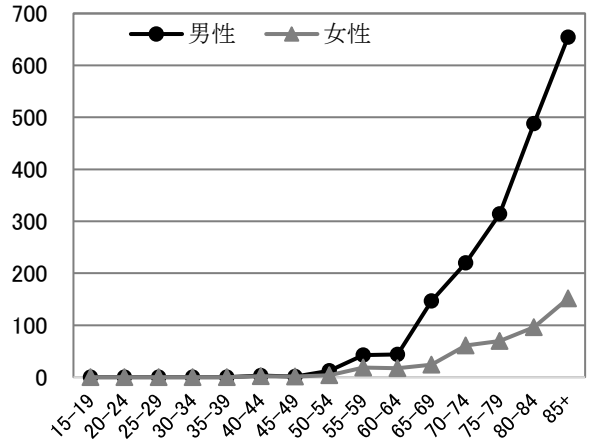
図 19 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対（表 11-2 から作成）



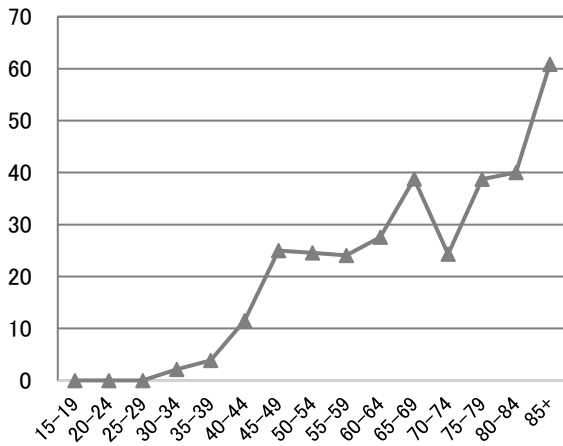
膵臓



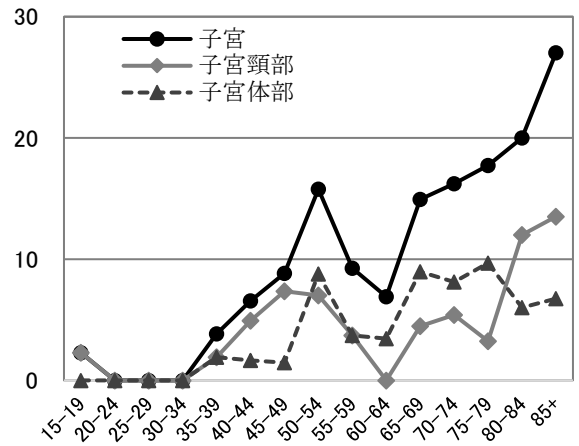
肺



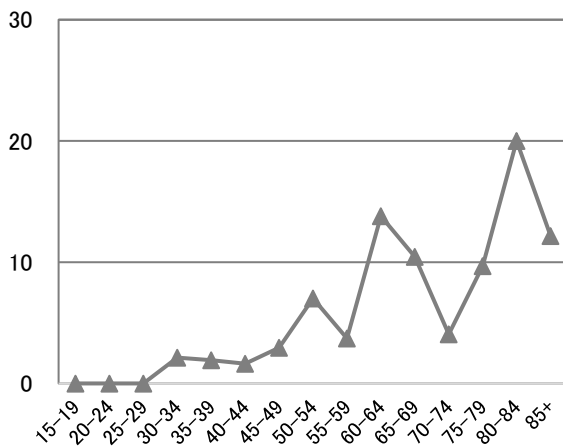
乳房 (女性のみ)



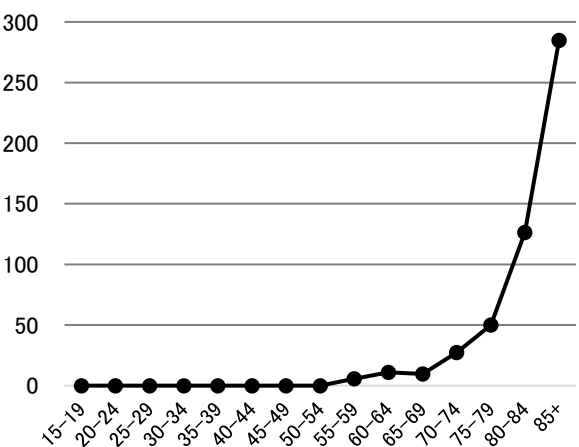
子宮



卵巣



前立腺



(3) 岡山県のがんの死亡の特徴

部位別の粗死亡率と年齢調整死亡率について、厚生労働省の「人口動態統計」による全国値との比較を示した。

年齢調整死亡率で見ると、ほとんどの部位において岡山県は全国値を下回っている。【図 20・21】

図 20 部位別粗死亡率：人口 10 万対（表 9、人口動態統計から作成）

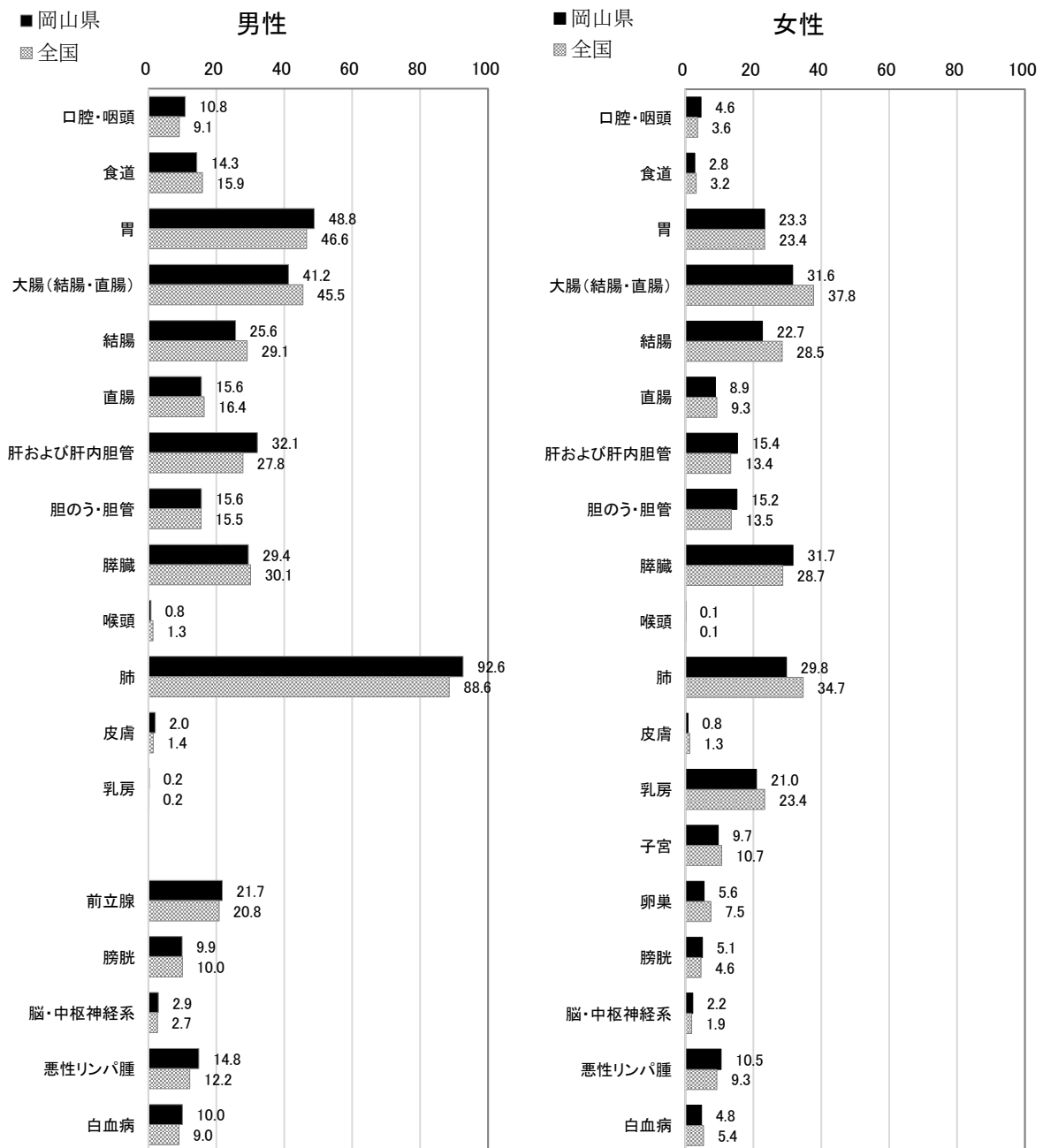


図 21 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（表 9、人口動態統計から作成）

